

大迫研究 成果報告レター

(大迫町健康フロンティア事業)



健康フロンティア事業と大迫研究のあゆみ

大迫健康フロンティア事業は、1986年から家庭血圧計を導入することで大迫住民の健康意識を自発的なものに変えることを目的に、東北大学と旧県立大迫病院の協力を得て旧大迫町で開始された事業がもとになっています。一方で、大迫研究として参加同意が得られた皆様方の医療データを、大学スタッフが分析し、数多くの成果を挙げております。

現在、**第7期目**に入っており、これも住民の方々のご理解とご協力の賜物です。

大学の取り組み（大迫研究の成果）

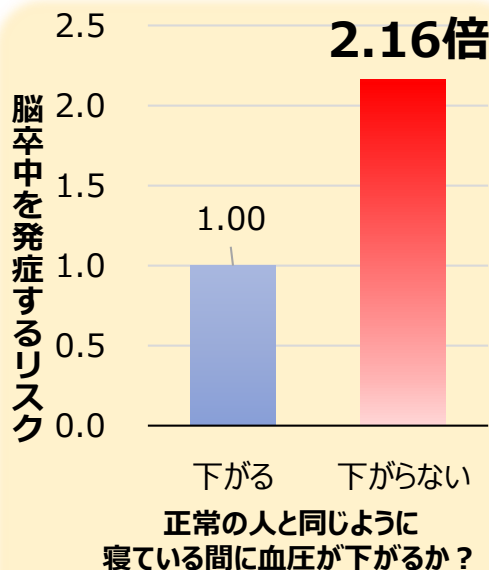
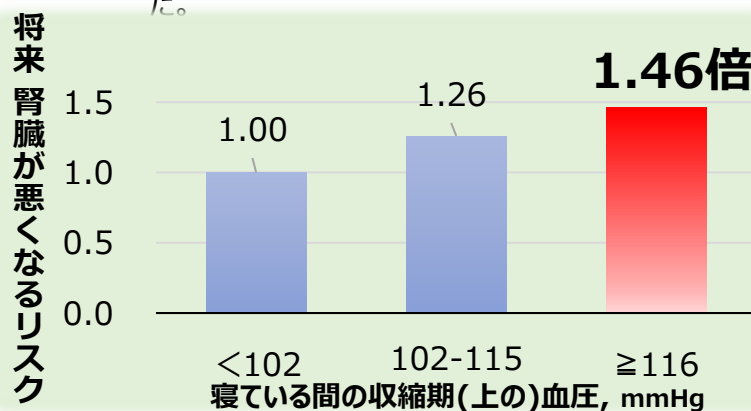
大迫研究の成果が発端となり、家庭血圧に基づく高血圧の基準値が作られました（上の血圧が135 mmHg以上、または、下の血圧が85mmHg）。一般的になったこの基準値は、世界の臨床でも使われています。

現在は、帝京大学が中心となり、東北大学、東北医科薬科大学、岩手医科大学、秋田大学などのその他多くの大学機関の協力も得て継続しており、その成果の一部を下記に紹介します。

寝ている間の血圧が高い人は危ない？！

朝の家庭血圧が高いことが、脳卒中発症につながってしまうことはとても有名です。一方で、大迫健康フロンティア事業では、お配りした家庭血圧計で「夜の寝ている間の血圧を測る」ことをお勧めしています。それはなぜでしょうか…？

正常の人は、夜の寝ている間、血圧は日中より低くなります。これを「**夜間降圧**」といいます。以前に、大迫住民の方に血圧計を所持してもらい、24時間、30分ごとに血圧を測っていただいたことがありました。そのデータを解析したところ、夜間降圧が小さい人や、寝ている間の血圧が高い人は、将来の脳卒中や腎臓病になるリスクが高い可能性が分かりました。



今は、一般的に売られているもので、夜寝ている間の血圧を測れる家庭血圧計が残念ながらありません。ただし、夜寝ている間の血圧が高い人は、朝の家庭血圧が高いとも考えられているので、**まず朝の家庭血圧を注意して測ってみましょう**。血圧が高めの場合は、専門の医療機関を受診するか、健康フロンティア事業では寝ている間の血圧を測れる血圧計を配布しているので、当事業に参加して測ってみましょう。

大迫研究関係者からのご挨拶



1980年代当時に、旧・岩手県立大迫病院の院長であった永井先生と私、そして保健師皆様のご協力の下で始めた健康フロンティア事業（旧・家庭血圧測定事業）も、30年以上継続しております。これも、本事業へご参加および大迫研究へご協力いただいた住民の方のおかげと心より感謝いたしております。研究面については、下記ならびに各共同研究機関に概ね引き継ぎを行いまして、現在私は、週に一度の大迫地域診療センターでの診療を実施しております。この大迫町に今でも関わらせていただけることをとても幸せに感じております。

**一般社団法人 東北血圧管理協会
理事長 今井 潤 先生**

永井先生と今井先生が始められた事業と研究を引き継がせていただきました。以前と比べ、大迫町の脳卒中発症率は大きく低下しました。これは、家庭血圧測定事業の成果です。しかし残念ながら、脳卒中や心臓病になられる方はゼロではありません。これは我々の責任でもあると考え、身を引き締めて今後も事業ならびに研究を介した健康向上に努めてまいります。また、参加された住民の方々の検査データを大切に分析させていただき、臨床へ役立つ多くのデータを発信することができております。年齢調整後の日本の脳卒中・心臓病による死亡率は低下傾向にありますが、その一端はこの大迫研究の成果が担ったものと確信しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

**帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座
主任教授 大久保 孝義 先生**



検診結果の判定やデータの整理など幅広く携わらせていただいております。私は20年ほど関わっておりますが、住民の方々の健康は非常に改善してきたという印象です。今後は大迫診療センターで月に1度、臨床医として診察させていただきます。皆様のお話を聞けることを楽しみにしています。

同講座 教授 菊谷 昌浩 先生



私は大学で主に、データの学術的な分析や国際的な共同研究の実務に携わっています。大迫研究は、世界的にも「おおはさま (Ohasama) スタディ」の名で知られており、その成果は世界中のひとびとの健康向上に役立てられています。健康フロンティア事業でも皆さんにお会いしていますが、最近は大迫地域診療センターで月1回の外来診療にも就いております。引き続き皆さんの健康維持に貢献して行きたいと存じます。

同講座 准教授 浅山 敬 先生

